

## ～第 218 回総研セミナー開催報告～

2024 年 4 月 15 日 15 時 30 分～東京都市大学横浜キャンパス 2 号館 22G において、第 218 回総研セミナーが開催されました。Zoom によるハイブリッド開催となったため、本学教職員・学生だけでなく、学外の方からも多く参加いただきました。サステナビリティ学連携研究センターが主催の「サステナビリティ研究の最前線－SX の実現に向けて－」と題したセミナーです。

本サステナビリティ学連携研究センターは、設立して 2 年が経過し、科研費、国プロ、企業からの受託研究等、学内外の連携研究が進んでまいりました。今回はこれまで実施してきたサステナビリティ研究の最前線を報告するものとなりました。

まず、馬場健司教授から「シチズンサイエンスと熟議による気候変動分野における研究 DX の具現化」と題してお話があり、気候変動分野の国や自治体の取り組みにはじまり、学術的にも市民をどのようにとらえ、何が課題でどのような取り組みが行われてきているのか概観致しました。

次に大久保寛基教授より「IoT を活用した 1 次データによるサプライチェーンとしての CFP 算定事例」と題し、企業内で実際に IoT を活用し、CFP 算定を行い、環境配慮するとともに、より生産プロセスを効率化していく取り組みの紹介がありました。

そして、佐藤真久教授より「探究の高度化・自律化と社会のエコシステム構築を連動させた地域づくり～山形県酒田地域の取組を通して～」と題して、高等学校、地域の青年会議所、市民、JR 東日本、日本総合研究所、東京都市大学が連携して、高校生を主体として地域の「温かい目」を浮上させることで、地域活性化を進めていく新たな試みが紹介されました。

最後に、古川柳蔵教授より「ナラティブ・アプローチを用いた行動変容と課題－未利用資源を活用した試食会の事例－」と題して、JST 共創の場形成支援プログラム「美食地政学に基づくグリーンジョブマーケットの醸成共創拠点」の研究事例が紹介されました。多数の大学、大学研究者、企業、市民、自治体がかかわる持続可能なフードシステムの実現に向けた研究概要やその中でも消費者・生産者の行動変容にかかわる研究や実現に向けた課題が紹介されました。

会場では 8 名ほど、オンラインでは最大 20 名程度の参加者がおり、会場からの質疑応答がなされました。

最後になりますが、本研究を支えてくださった大学研究者、企業、自治体、市民の方々には感謝申し上げます。引き続き、サステナビリティ学連携研究を少しでも前進させ、社会へと研究成果や新たな視点を発信していきたいと考えております。



# 第218回 総研セミナー開催案内

下記のとおり第218回総研セミナーを開催いたします。  
今回は、サステナビリティ学連携研究センター主催の総研セミナーとなります。  
本セミナーには、本学の教職員、学生、その他どなたでも自由に参加できます。是非多くの方にご参集  
頂けますようご案内申し上げます。

記

日時：2024（令和6）年4月15日（月）15：30～17：40  
場所：東京都市大学横浜キャンパス2号館22G  
オンライン：ミーティング ID: 810 3442 6476 パスコード: 044979

\*\*\*\*\* プログラム \*\*\*\*\*

## サステナビリティ研究の最前線－SXの実現に向けて－

- 15：30 開会（司会：古川柳蔵教授）  
15：35 馬場健司教授  
「シチズンサイエンスと熟議による気候変動分野における研究DX  
の具現化」  
16：05 大久保寛基教授  
「IoTを活用した1次データによるサプライチェーンとしての  
CFP算定事例」  
16：35 佐藤真久教授  
「探究の高度化・自律化と社会のエコシステム構築を連動させた  
地域づくり～山形県酒田地域の取組を通して～」  
17：05 古川柳蔵教授  
「ナラティブ・アプローチを用いた行動変容と課題  
－未利用資源を活用した試食会の事例－」  
17：35 閉会

お問い合わせ先：総合研究所事務室  
TEL：03-6809-7484 Email：souken@tcu.ac.jp

